

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和5年度第1回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和5年4月21日（金） 午前10時00分 ～ 午前10時48分
開催方法	501会議室
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 （委員）	委員 興松 敬史 委員 石田 真由美 委員 宮崎 仁美 委員 芳賀 良 委員 長谷川 孝雄
欠席者氏名 （委員）	無し
説明のため 出席した者	無し
事務局	山本課長 石嶋主幹 北田副主幹 野本主任
議 題	（1）令和5年度外部評価の方向性等について （2）その他
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	次第 【資料1】「行政評価制度の改善等に関すること」に係る今後の方向性について 【資料2】外部評価実施施策一覧 【資料3】評価対象施策の回答スケジュールについて

(会議の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員長	<p>1 開 会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>ChatGPTが話題になっている中、大学でも対話型AIとどのように向き合っていくのかという点について検討が行われている。禁止すべきか、あるいは個人情報に留意しながら活用していくのかなど、対応の在り方が大学によって、異なっている。自治体においても、報道では鳥取県が使用禁止と公表している。戸田市では、先日メディアにも取り上げられていたように、ChatGPTの調査研究チームを立ち上げ、10月には「自治体業務におけるChatGPTの活用ガイド」を作成するとのことである。</p> <p>翻って、戸田市の外部評価委員会は、EBPMのひとつの方向性として、昨年度からロジック・モデルを実装している。また、戸田市は学校教育分野におけるEBPMの推進について、特に先駆的な取組をしていることは、有名な話である。</p> <p>ロジック・モデルについて、政府は、2017年頃からEBPMを推進しており、2020年頃から各省においてもロジック・モデルを政策評価に実装し、現場の活用が始まったところであるが、自治体においては、計画策定や行政評価を行う際にロジック・モデルを導入しているところは少なく、戸田市は、この取組のトップランナーと言える。</p> <p>ただ、ChatGPTやロジック・モデルも、留意すべきは「なんのために使うのか」という点を忘れがちになってしまうことである。ロジック・モデルシートを作成することがゴールになってしまうと行政評価の負担感を感じるだけの単なる文書事務になってしまう。ロジック・モデルを作成する過程で、関係課や住民、事業者と一緒に議論することや「政策の設計図」と言われるロジック・モデルが議論を通じて共有されていくことが重要である。</p> <p>また、ChatGPTとロジック・モデルは、どのような関係性があるのか。要するに、ロジック・モデルを作る際にChatGPTを活用することについては、創造的な取組であるロジック・モデルの議論に馴染むかどうか。あるいは、積極的に活用すべきかどうかという点についても戸田市がどのよ</p>

	<p>うな見解を出すのか、大変楽しみにしている。</p> <p>今年度も引き続き、委員の皆様と議論ができることを楽しみにしている。</p>
事務局	<p>3 議 事</p> <p>(1) 令和5年度外部評価の方向性等について</p> <p>資料1に基づき、事務局が説明を行った。</p>
委員	<p>課題としては、効果的な事務事業の選定とそれを担当する職員の情熱であると感じている。事務事業の選定や事業の進め方については、ロジック・モデルシートで活用し、確認することができる。</p> <p>一方で、事業を行う部局が外部評価制度をどの程度、理解した上で、取組を進めているのかが、不明である。資料1区分「行政評価制度について」の②に記載されている施策の担当部門と施策全体の推進部門との関係性について、基本的には、施策の担当部門に任せていると回答されているが、施策の推進部門から見て、施策の担当部門の施策を進めていく、やり遂げていくという意志をどのように感じているのか。</p>
事務局	<p>施策の担当部門がやり遂げていく意志について、ロジック・モデルシートを例に取り上げると、政策立案における見える化を現在、進めているところであるが、ロジック・モデルシートで上手く表現できていない点も課題の一つである。一方で、施策の推進に係る政策立案の過程やその後の進捗に関して、施策の担当部門では、取り組むべき課題を捉えた中で事業をしっかり推進していくという意志を持って進めている。</p>
委員	<p>ロジック・モデルシートの課題に対する今後の方向性については、資料1区分「行政評価制度について」の①や⑤のように仕組みを検討されているようだが、施策を担当する側に対しても何かしらの仕組みがあるのか。例えば、施策の進捗が良い場合は、職員のモチベーションがあがるような処遇を行っていたり、予算や人員を配慮するなどの仕組みがないと職員の負担感だけが増してしまうのではないか。外部評価とは異なる観点と思うが、既に仕組みがあるなら教えていただきたい。</p>

事務局	<p>そのような仕組みについては、今後、検討していきたい。担当部門任せにならず、そのような仕組み作りは、推進部門の大きな使命である。また、施策の推進部門である企画部門の範囲だけでなく、予算や人員の配慮にもつながるような仕組みも含めて、導入に向け検討していきたい。</p>
委員	<p>今の話に関連する話になるが、研修体制やマニュアルなどは揃っているのか。継続的な研修体制も必要であり、話がでていたインセンティブを与える方法のほかにも、資格認定制度や推進員など、理念だけでは浸透しにくいのではないかと考えるので、具体的に進めていただきたい。</p>
事務局	<p>第5次総合振興計画を策定する際に、初めてロジック・モデルの考え方を取り入れた。その後、外部評価委員会において、ロジック・モデルシートを実装する際に、各部局においてマニュアルを参考にロジック・モデルシートの見直しを行ったところである。今後は、予算や人員、政策立案につなげていくことが必要であると感じているので、そのような場面でもロジック・モデルの考え方を活かせるように研修体制をはじめ、提案いただいた資格認定や推進員などの御意見も踏まえつつ検討していきたい。</p>
委員	<p>委員から提出された「行政評価制度の改善などに関すること」の検討をどのように進めていくかの計画が示されたとのことだが、検討には机上調査や小規模なサンプルで試験運用することなどが考えられる。例えば、資料1区分「行政評価制度について」の⑥において、評価後のフォローアップを検討する際に、1事業を選び、試験的に行ってみる方法もあるが、その検討結果や進捗状況などを当該委員会に報告してもらう場合は、ヒアリングを行う第4回及び5回以外の委員会で行うしかない。もちろん、試験運用を行わない検討方法もあるが、どのように考えているのか。</p>
事務局	<p>御意見のとおり検討方法については、予算編成の過程において、事業の方向性や課題を整理した上で、市長査定等に向け各種資料を作成しているところだが、最終的には、その議論の過程を国のようにロジック・モデルを活用しながら、ロジック・モデルで議論や検証された内容を予算化していくような形が望ましいと考えている。その段階まで進めていくに当たっては、庁内</p>

	<p>のコンセンサスを取りつつ、職員のスキル向上のための研修等が必要になると考えているが、現時点で、机上や試験運用などのどのような検討方法を用いて実施していくかについては、確定しておらず、検討を開始する段階に至ったところであり、1つの事業を選び試験的に実施する方法も踏まえつつ、検討していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>担当部門の熱意も重要だが、それ以上に、市としての熱意が表れるかが重要である。ロジック・モデルを作るだけで、形骸化してしまえば、意味がなく、どのように進めていくべきかという観点で考えていただきたい。そうでなければ、当委員会は単なる評価に終わってしまうので、施策の推進のためにどのようにするべきかという観点についても留意しつつ、検討を進めていただきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>昨年度の外部評価委員会を振り返ってみると、評価対象施策を担当する次長及び課長からヒアリングした際に、総合振興計画の施策の担当者というよりは、施策に紐づいている個々の事務事業を担当している立場であったと個人的に感じたところである。そして、施策と事務事業は、目的と手段の関係であり、目的を達成するための手段を選択しているというよりは、過去から継続的に行われてきた事業を管理しているという立場から説明されていたように見受けられた。</p> <p>さきほど、委員からも話のあったように、外部評価委員会では、施策の担当者とのヒアリングを行うものと認識しているため、施策を推進するという当事者意識が必要であると考えます。また、施策単位になると取組が広範囲に及ぶため、他部局との連携など庁内の共創があつてしかるべきであるが、昨年度の外部評価委員会では、あまり見てとることができなかった。ロジック・モデルを導入したからといって、仕事の進め方がたちまち変わるというわけではないので、委員から話があつたように行政経営の推進体制をしっかりと構築していく必要がある。そういった意味でも、各部署が自主的に創造性をもって取組を進めていくのは当然のこととして、総合振興計画を所管する共創企画課においても、推進体制を検討する必要があると考えます。国を例にあげると、EBPMの推進体制として府省に政策立案審議官等を配置するなど、人的な推進体制を敷いている。戸田市においても部長会を活用するな</p>

	<p>ど、ロジック・モデルが単なる絵に描いた餅にならないように研修、推進委員、資格制度など推進体制の構築を念頭に置きながらロードマップを組み立てていただきたい。</p> <p>研修については、第5次総合振興計画を策定する際に、部長をはじめ全庁的に実施されていたが、新型コロナウイルスが流行する前の話であり、人事異動等で担当者が交代した場合などもあるので、継続的な研修体制を整備していくことは重要なことであると、改めて認識したところである。また、委員の話であったように、検討といっても様々な手法があるので、外部評価委員会の場においても、検討状況等をフィードバックしていただきたい。</p>
委員長	その他に意見や質問等はあるか。
委員一同	なし
事務局	<p>(2) その他</p> <p>第2回戸田市外部評価委員会で、ヒアリング対象施策の選定を実施するため、今年度も事前アンケートを実施したい。</p> <p>今年度の選定方法は、市民委員にそれぞれ6施策を選定した上で、他の委員5名に3つずつ施策を選定していただきたい。その集計結果から委員会選定分(案)を作成する予定であることから、事務局から送付する回答シートに記入の上、提出いただきたい。</p>
委員	<p>第5次総合振興計画前期基本計画を開始した頃に、国の法令や市の条例改正等により、新たに開始した取組の割合が多く占める施策やいわゆる公共事業の分野など長期的な取組を行う施策など、施策によって状況が異なる。また、法令等の改正により事務を移管しただけで、ほとんど取組が変わらない場合や市が独自で開始した取組がある場合など、施策を選定する際の参考資料として、新規の取組等が分かるような補足や資料を提供いただくことは可能か。</p>
事務局	<p>施策に紐づく事務事業については、委員の御指摘のとおり国発信の事業や市独自の新規事業等があるが、新規の事務事業を参考資料として提供する形</p>

	で良いか。
委員	選定に当たり、施策の一覧を参考に検討することになるため、各施策の中にどのような新規の事務事業等があるか、分かるような資料をいただきたい。
事務局	資料を準備させていただく。
委員	国の事業については、市の裁量がない事業が多いと考える。そのため、市の独自事業と区別し、分かるようにしていただきたい。また、昨年度に評価対象となった施策は対象外ということでよいか。
事務局	御認識のとおりです。
委員長	意見や質問等はあるか。
委員一同	なし
	4 閉 会

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和5年5月18日(木) 午前10時00分～午前10時11分
開催方法	Web会議
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 (委員)	委員 興松 敬史 委員 石田 真由美 委員 宮崎 仁美 委員 芳賀 良 委員 長谷川 孝雄
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	無し
事務局	山本課長 石嶋主幹 北田副主幹 野本主任
議 題	令和5年度評価対象施策の選定について
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	次第 【資料1】令和5年度評価対象施策(外部評価委員会の選定分)(案) 【資料2】令和5年度評価対象施策(市長の選定分)

(会議の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員長	1 開 会 2 委員長挨拶 第2回外部評価委員会では、今年度の外部評価対象施策を協議の上、確定させたいと考えているので、お願いしたい。
事務局	3 議 事 ○令和5年度評価対象施策の選定について 資料1に基づき、事務局が説明を行った。
委員長	意見や質問等はあるか。
委員一同	なし
委員長	事務局（案）を今年度の評価対象施策としたい。
委員一同	異議なし
委員長	本件に直接関係ない話になるが、外部評価の対象となる施策は、5年に1回のペースで選定される。1度選ばれるとしばらく選ばれないというケースが出てくる。そのような場合、ある種の緊張感を持って施策を展開するということが難しいことも考えられるのではないか。今年度は、この施策が良いが、この点については、今後の検討課題としていただきたい。
	4 閉 会

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和5年度第3回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和5年6月30日(金) 午前9時00分～午前11時40分
開催方法	大会議室A
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 (委員)	委員 興松 敬史 委員 石田 真由美 委員 宮崎 仁美 委員 芳賀 良 委員 長谷川 孝雄
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	無し
事務局	山本課長 石嶋主幹 北田副主幹 野本主任
議 題	(1) 令和5年度評価対象施策の概要について (2) 今後の事務スケジュールについて
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	次第及びタイムテーブル 【資料1】 施策評価シートの構成について 【資料2】 施策評価シート・事務事業評価シート 【資料3】 外部評価ヒアリングまでのスケジュールについて 【資料4】 ヒアリング実施スケジュール 【参考資料】 附属機関一覧 【事前質問記入用紙】 令和5年度外部評価ヒアリング

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員長	<p>1 開 会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>8月の外部評価ヒアリングの実施に当たり、その評価対象となる6つ施策の概略について、委員の皆様との間で情報共有を図るという趣旨で開催されるものである。長丁場になるが、協力をお願いしたい。</p>
委員長	<p>3 議 事</p> <p>(1) 令和5年度評価対象施策の概要について</p> <p>本日はタイムスケジュールが厳しくなっており、議題(1)に係る委員からの質問は、各施策に係る事実関係を確認する質問に留めていただき、事業の妥当性など、施策評価の内容に係る質問については、8月に行われるヒアリングの際に行っていただきたい。また、この場ですぐに回答できない質問については、次回のヒアリングで回答するという取扱いにさせていただきます。円滑な進行のため、委員各位の協力をお願いしたい。</p>
事務局	<p><施策4「世界で活躍できる人間の育成」></p> <p>資料2に基づき、事務局が説明を行った。</p>
委員	<p>口頭で補足説明をしていただいたが、資料に書かれてない情報については、提供がされないと理解が難しいので、重要な情報については、補足資料を添えていただきたい。</p> <p>補足資料を参考に、キーワードから自分で調べるので、情報提供をお願いしたい。</p>
事務局	<p>補足資料を準備する。</p>
委員	<p>取り組みの方針欄には、世界で活躍するための能力育成の推進について記載しており、1項目と2項目には、教育の方向性などについて書かれている。</p>

事務局	<p>3項目は、コミュニケーションとは別に、個々の問題に対する相談体制について書かれている。</p> <p>行政としては、これらの取組を教育の現場にどのように落とし込んでいるのか。ICT化などは、言葉のとおりで分かる。教育の現場と行政側の支援については、どのように読み取れば良いのか。</p> <p>世界で活躍できる人間の育成に向けた取組を行うに当たり、世界で活躍するための能力育成の推進、地域の連携強化、教育環境の充実をするための大きなものとして、教育委員会がある。事務事業評価シートでは、教育委員会事務費が該当し、教育委員会を開催していくための庶務事務的なものを担っているが、本事業の事務事業評価シートを見ても審議内容は記載されないで、審議結果やどのように教育現場に反映しているのかという点については、ヒアリングの際に、教育委員会事務局に質問していただきたい。</p>
委員	<p>承知した。担当課は、教育政策室で良いか。</p>
事務局	<p>教育委員会事務費の担当課は、教育総務課になる。</p>
委員	<p>取り組みの方針については、よくマスコミに出てくるような言葉が多いが、それを行政として、どのようにどう落とし込んでいるのか。</p> <p>我々としては、総合振興計画を評価する中では、重要なことであると感じている。</p> <p>教育現場の取組については、我々が評価できる立場ではないが、それを行政としてどのように支援しているのかという点について、興味がある。</p> <p>そのような部分が、分かるようにヒアリングしたいと考えている。</p>
事務局	<p>教育委員会は、いち早くEBPMの考え方を取り込み、今までの経験や勘でだけで、教育するのではなく、データ等の根拠に基づいた指導方法を徹底している。</p> <p>世の中の変化が非常に激しい中、今後、どのように育成していくかという点については、教育政策室が中心となる、新たな手法を含む様々な手法を取り入れながら、トライアンドエラーを繰り返しながらやっているのです、その</p>

	<p>ような取組内容については、ヒアリングの際に、質問していただいた上で評価をお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>事務事業が多いが、体系や事務事業同士の関連はどのようになっているのか。ロジック・モデルシートが次回に出てくるとのことなので、今回は踏み込んで聞かないが、そのような点についても分かるように説明していただきたい。一つずつ説明していただいても、全体が見えてこないような気がする。</p>
<p>事務局</p>	<p>ただいま、ロジック・モデルシートを検証している最中だが、非常に大きなロジックの展開図になる。</p> <p>学校施設の面から教育を支える部分もあれば、指導方針に基づいて支える部分もある。また、学校にも通えない子供達に対する支援であったり、通ってはいるが、相談が必要な子供に対する支援など、各種方面から総合的にまとめているところである。</p> <p>ロジック・モデルシートもなるべく分かりやすいように、まとめた上で提示させていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>施策評価シートについては、大事業や中事業など、どこに位置づけられているかということが分かるように示していただきたい。</p> <p>大事業の中に中事業がいくつあるという形が望ましい。一つ一つを細かく見ていって、全体がぼやけてしまつては、良くないと考える。</p>
<p>委員</p>	<p>一委員としては、第5次総合振興計画の冊子に書かれている施策4の内容を見ながら確認することを前提とした上で、施策評価シートにある実績等を見ていくものと理解をしている。</p> <p>その施策4のページを見ると、開発抑制をして、学校規模を適正にコントロールするという部分に大きく下線が引かれている。</p> <p>人口のコントロールをする施策である一方で、施策評価シートでは、人口のコントロールに関するところが、何も書かれていない。</p> <p>これは、施策のロジック上で、問題があるのかないかを確認しなければいけないというのが質問の1点目である。</p>

<p>事務局</p>	<p>2点目として、同じく施策4の中には、いろいろな部分に下線が引いてあり、そこが頑張る部分あるいは、そこが課題であるということを気にしながら、施策評価シートを見ると、学校運営協議会については、非常に大きく下線が引いてあるが、それとどこが対応しているのかが、よく分からなかった。</p> <p>つまり、計画上では、頑張るとしているが、施策評価シートのどこにその記載があるのか。このことをどのように整理するのか、補足資料が必要かということが2点目である。</p> <p>3点目は、この施策を評価する中での大きな柱として、資源の投入の方向性に関する問題がある。</p> <p>施策4では、学校給食費の公会計化などの問題を所管する大事な領域があり、健やかな環境にどのように貢献するかという設定になっている。学校給食を巡っては、国と県の動向で市以外の公費が入る方向性について既に大きく見えている状況であるが、そのような場合、過去の実績を踏まえた評価や方向性の議論ができなくなってしまうのではないかと。</p> <p>この扱いは、どの施策でも発生しうる問題である。統一的な見解は言えないものという前提で、明らかに予算措置まで進んでしまっている事柄があるので、どう扱うのかというのが3点目である。</p> <p>1点目の学区の問題については、住民抑制をしてとなっているが、第5次総合振興計画の策定時の協働会議において市民も参画しながら策定した際に大事であるという意見が出た内容に下線を引いている。</p> <p>もちろん、教育委員会事務局では大規模なマンションなどの計画が立ち上がった際には、その学区の学校規模の維持ができないことが懸案されていた時期であったため、総合振興計画を策定する際には、そのような課題もしっかりと踏まえて各学校の整備状況を検討していくとしていたところである。</p> <p>実際には、小学校及び中学校の施設整備事業の中で、大規模改修等を行っており、住民抑制に関する指導要綱などによって維持していく点については明記がされていないが、教育委員会事務局としては、都市計画部門と協議を重ね、開発状況等の情報を共有しながら、必要に応じて、大規模改修を行い、教室の確保などを努めている。</p> <p>近年の状況を把握しているわけでないが、検討しながら進めているので、ヒアリングの際に回答できるようにしていきたい。</p>
------------	---

委員	<p>都市計画の決定権限は、教育委員会事務局ではないという前提で、施策評価シートの関係課の中に都市計画部門が入っていない。そうすると、取り組むという設計がされているものとどのように対応しているかについて、穴があるように見えてしまうことから、質問したものである。</p>
事務局	<p>事案が発生するたびに協議が行われるため、5年、10年の間にそのような大規模な開発が行われる事案が発生した場合は、都市計画部門との協議が行われるため、その年度については、非常に濃い関係課になっていくが、総合振興計画の中では、毎年度、必ず関係するものではないので、関係課としての位置づけをしていない。</p> <p>2点目の学校運営協議会については、コミュニティ・スクール事業の中で、学校運営協議会の連携を図りながら、円滑に運営するというものである。ヒアリングの際は、コミュニティ・スクール事業として、学校運営協議会との取組について説明させていただく。</p> <p>3点目の資源の導入については、学校給食に関わらず、国・県の動向次第で、予算や事業の位置づけが変わることは多くあるが、我々の評価は、昨年度実施した事業を踏まえて、翌年度以降の方向性を出している。そのため、現時点で国・県の動向が未定な場合は、市として予算化を想定しながら進めていくという判断をせざるを得ない状況になってしまう。</p> <p>その点について、市として予算化がなされているものは、市で内部評価を行った上で、今後の方向性を示していることを踏まえながら判断していただきたい。</p>
委員長	<p>ヒアリングの際に、改めて質問することができ、7月13日締め切りの事前質問用紙に書いていただくこともできるので、活用していただきたい。</p> <p>ロジック・モデルシートについては、本日の資料にはないが、提示されるのはいつか。それがあれば、質問しなくても良い場合もある。</p>
事務局	<p>ロジック・モデルシートについては、7月28日頃、送付させていただく予定で進めている。</p>

委員長	特に意見がなければ、次の施策の説明に移って良いか。
委員一同	異議なし
事務局	<p><施策9「健康づくり支援の充実」> 資料2に基づき、事務局が説明を行った。</p>
委員	<p>総合振興計画の策定は、新型コロナウイルス感染症の拡大前の話であるが、新型コロナウイルスワクチン接種事業が施策9に入っている。</p> <p>施策8にも関係する事業であると考えますが、その前に施策8と施策9の線引きがよく分からない。いわゆる地域医療の範囲はどこまでか、健康づくり支援の範囲は、どこまでか。もちろん、線引きする必要があるわけではなく、連携していけば良いが、線引きについて、理解しきれていない状況である。ただ、責任を持って取り組む部署がないと困ることも多いと考える。</p> <p>施策8と施策9の違いをはっきりさせたい。新型コロナウイルスワクチン接種事業が施策9に決まった経緯などは教えてもらえるか。</p>
事務局	<p>新型コロナウイルスワクチン接種事業は、感染症対策の関係であり、施策9に感染症対策事業があることから、施策を構成する事務事業として位置づけられていた。</p> <p>そこに新型コロナウイルス感染症が発生したため、当然ながら従前担当している施策9の感染症対策の一環として、位置づけられたものである。</p> <p>第5次総合振興計画の冊子の68ページの施策の目的のとおり元気で長生きで健康に生きていくためには、感染症に対する対策をしっかりと行い、感染しない、した場合も重症化しないために予防接種を行うことで、現況と課題欄のとおり感染症から市民を守るという認識で、この施策において展開しているものである。</p>
委員	<p>感染症と聞くと、地域などのイメージが沸くため、新型コロナウイルス感染症対策関係の事務事業が施策8でないのかと疑問に思ったところである。</p>

委員	<p>さきほどの話と重複するが、第3次健康増進計画が出てきたので、その情報提供をお願いしたい。また、第2次食育推進計画は、検索すれば情報がでてくるものか。自分で調べるために教えてほしい。</p> <p>2点目は、共通事項として確認したいが、施策評価シートの説明の際に話があったが、施策内優先度の任意事業は、ABCのいずれかが付き、施策内優先度の「義」は、義務ということで良いか。</p> <p>それから、施策内優先度の「予」は、予算管理シートと書いてあるが、予算管理シートの意味が分からない。</p>
事務局	<p>予算管理シートについて、具体例を挙げると、事務事業評価シートの右上に9ページの健康増進事業がある。これまで事務事業評価を実施する中では、今後の方向性についても次年度に評価している。</p> <p>予算編成用シート（評価除外事業）については、制度当初から実施している仕組みであり、他の事業を下支えするような庶務事務的な予算だけを扱う事業については、評価の判断を下すのが非常に難しいが、そのような経常的な経費についても必要であるため、予算編成用シートという位置づけにし、評価をしないことにしている。</p> <p>そのため、事務事業評価シートを見ると、予算までは記載しているが、裏面の目標の達成状況の指標は設定をしておらず、評価していないことになっている。</p>
委員長	<p>特に意見がなければ、次の施策の説明に移って良いか。</p>
委員一同	<p>異議なし</p>
事務局	<p><施策16「地域防災力・危機管理体制の充実・強化」> 資料2に基づき、事務局が説明を行った。</p>
委員	<p>近所付き合いが非常に疎遠になってきている。町会に入らない人もかなり増えてきている中で、いわゆる共助の取組を具体的には、どのように取り組もうとしているのか。</p>

事務局	<p>自主防災会は、地域ごとの自主的な取組だと思うが、具体的には自主防災会はいくつあるのか、地域的な偏りがあるのかなど。</p> <p>また、今後、どのようにしていくかについては、どこから読み取ればよいのか。</p> <p>数値は、持ち合わせていないため、ヒアリングの際に、回答させていただきたい。</p> <p>地域の偏りや自主防災会を今後どのように考えているかについては、おっしゃるとおり町会の加入率が低下している中で、自主防災会に頼っての共助が難しい部分が出てきていると感じている。</p> <p>そのような点についても、ヒアリングの際に、回答させていただきたい。</p>
委員	<p>委員の皆様と認識を共有するための質問である。</p> <p>施策16は、地域防災力・危機管理体制の充実・強化がタイトルになっているが、危機管理体制の定義については、各立場によって異なる可能性が非常にあるので、評価軸が異なると認識も変わってしまうこともある。</p> <p>施策16の危機管理体制とは何かについて、共有できればという意図の質問である。</p> <p>例えば、市長のトップダウンで決めていく市の防災会議などのマネジメントを指すのか、それとも関係機関である警察なども含めて管理するということなのか、今日この場では答えはでないかもしれないが、共有できればという質問である。</p>
事務局	<p>ヒアリングの初めに、危機管理防災課から危機管理体制について、説明できるようにしたい。</p>
委員長	<p>委員から事務局に対して、様々な質問をいただいているが、質問した委員が、改めて事前質問用紙に書かなくても構わないという理解で良いか。事務局に質問が出ているので、事務局経由で担当部局に対して伝えることで、当日、または事前に回答していただけるという認識でよいか。</p>
事務局	<p>事務局が本日持ち帰り、各部局に確認した上で、回答させていただく方式</p>

	<p>としたい。聞き足りなかったところについては、事前質問用紙に記入の上、提出していただきたい。</p>
委員長	<p>できる限り、ヒアリング当日の時間を有意義に使いたいのので、事前に書面で担当部局から回答があるとありがたい。</p>
委員	<p>できれば、今日の議事録を暫定版で良いので、なるべく早くいただけると非常にありがたい。</p>
事務局	<p>承知した。速報版を早めに送付したい。</p>
委員	<p>第2回外部評価委員会で言うべきだったかもしれないが、市長の選定分の施策9、施策16、施策26を選定した思いや理由は何か。</p>
事務局	<p>市長から理由をお聞きしたところ、施策9に関しては、新型コロナウイルス感染症対策を持っている施策であり、5類に移行したことに伴い、これまでの振り返りをしっかりと市民委員の方も含めて行っていただければという思いで選定したものである。</p> <p>続いて、施策16の地域防災力に関しては、台風19号を踏まえ、本市としては、避難所運営や避難体制について、強化していくべきと市長も力を入れていることから選定したものである。</p> <p>最後に、施策26の公園に関しては、この後、説明があるが、本市の公園は他市に比べて、1人当たりの公園面積が非常に大きく、市民に身近に感じていただける距離感がありながら、その公園にいかに関心をもち、愛着を持ってもらえるかというところが大きなテーマで市長は捉えている。昨年度から力を入れている取組もあるため、選定したものである。</p>
委員長	<p>特に意見がなければ、次の施策の説明に移って良いか。</p>
委員一同	<p>異議なし</p>

事務局	<p><施策22「安心して生活できる住環境の充実」> 資料2に基づき、事務局が説明を行った。</p>
委員	<p>総合振興計画は、5年、10年ごとに見直していくものと思うが、年度単位で方向性が変わることはあり得るのか。例えば、この年度については、これを中心にやろう、この年度については、これをやろうというもの。</p> <p>ロジック・モデルシートに何年度計画と記載があれば、分かるのかもしれないが、継続的に実施しなければいけないという位置づけの施策であるのか。それとも10年間の目標「『このまちで良かった』みんな輝く未来共創のまちとだ」に向けた施策としているということなのかという点が、あんまりよく見えない。</p> <p>要するに、この施策全体が、第5次総合振興計画の中で、どのような位置づけで進めているのか、進めていこうとしているのか。</p> <p>また、それを実施部門としては、どのように、取り組んでいくのか。総合振興計画の99ページにあることをそのまま実施するというわけではないと考えるので、そのような点が良く分かるように説明していただけるとありがたい。</p>
事務局	<p>3つの事務事業について、それぞれ課題等もある中で進めているが、空き家対策に関して、市としては、空き家はあまり発生しないという評価である。</p> <p>ただし、発生すると大きな問題になってしまうので、空き家対策は長期間の取組が必要であり、対応しなければならない。また、マンションについては、昨年度、マンション管理適正化推進計画を策定したというのが一つ大きなことである。</p> <p>今後、計画に則って、どのように進めていくかに関しては、担当課から回答させていただきたい。</p>
委員	<p>単なる空き家の対策をどうしていくかだけではなく、安心して生活できる住環境をどうするか。他の施策にも関わってくることも多くあるのではないかと。そのような点も併せて、回答いただけるとありがたい。</p> <p>結局、建物が古くなり、空き家が出てきてから対策する不動産課ではないはずである。安心して生活できる住環境というのは、本当はどういうものな</p>

	<p>のかということ。</p> <p>もう一つは、ヒアリングの話だが、実数が分かれば、非常に説明の説得力が増す。空き家の件数がいくつで、どのような状況になっているのかというように。</p>
事務局	<p>その推移については、確認させていただく。</p>
委員	<p>政策の中でカバーするかしないか問題の質問である。</p> <p>総合振興計画の冊子99ページの取り組みの方針の最後のところでは住宅困窮者の方への支援について記載している。</p> <p>ただ、小項目には、市営住宅というタイトルがついており、あくまでも市営住宅に限定した取組であって、民間の住宅を利用するような家賃補助や生活保護を受給していれば住宅扶助の領域で借りやすくする、あるいは市営住宅の貸出しを協議することを抑制するというような福祉政策については、扱わないという設計もあり得るわけである。</p> <p>しかしながら、住宅困窮者をカバーする方策ということだけを取り上げると、いろいろな方法があるので、施策22の範囲は、どこまでかという整理をお願いしたい。</p>
事務局	<p>施策22については、住宅政策の中でも市営住宅というカテゴリで管理しており、市営住宅の観点から福祉との連携を図るということである。</p> <p>福祉政策として必要な住宅の供給に関して、施策22では評価しないこととしている。</p>
委員	<p>そうなると、ロジック・モデルシートを書いていただくに当たって、住宅を使って人々のウェルネスを上げるためには、あるオプションのここをカバーしますということが、ロジック・モデルシート上にないと議論が混乱することが目に見える。</p> <p>ここからは、統一的な議論になるが、この施策は、この部分をカバーしていると定義されるのであれば、カバーしない部分が本当はあるではないか、という質問が出てくる。その場合にどのような議論をするかについては、いかがか。</p>

<p>委員長</p>	<p>昨年度の外部評価委員会でも類似のケースがあり、私の記憶が定かではないかもしれないが、下水道施策の関係課において、例えば公園緑地担当も入るのではないのかというコメントを差し上げた。</p> <p>今回もあとで質問しようと思っていたが、施策評価シートの担当課欄は、どのように決まっているのかということを確認したかった。</p> <p>施策の名称は、非常に幅広で、大きなものを掲げている、看板として。</p> <p>しかし、紐づいている事業になるとかなり限定的になっていて、そのギャップが大きい。</p> <p>では、どちらに揃えていくか。施策に揃えると、委員の質問にもあったように、おそらく市営住宅の話に限定して良いのかという話になり、もっと幅広い議論になることから、建築住宅課以外の他の担当事業とかも入るのではないのかという議論になる。ロジック・モデルシートをそういう観点で見た場合、ここが少し不足している、となるかもしれないし、あるいは、この部分だけで良いという議論になるかもしれない。</p> <p>例えば、総合振興計画の98ページでは、空き家に関しては防災、防犯、景観について触れられている。そうすると建築住宅課だけが良いのか、景観担当課、あるいは危機管理防災課も必要ではないか、という横の連携があって然るべきではないのかという議論になってくる。</p> <p>その交通整理は、昨年度にヒアリングを実施してみて、まだ確定していない部分があると感じたところである。</p> <p>話を元に戻すと、施策評価シートの担当課欄はどのように決定しているのか。単純に施策を担当していく部局が自己申告で書いて、共創企画課がそれをチェックする、あるいは、もっと全体的に取り組むなら、この課が必要であるというように、そういった調整を行っても良いと思うが、どう考えているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>第5次総合振興計画を策定する際には、戸田市をどのような方向性にしていくのか、基本目標を定めて、そこに対して何ができるのかということで、事務事業を検討し、担当する所属を特定している。</p> <p>現状、計画を進行してきたこの2年間の中では、スタート時に建築住宅課が安心して生活できる住環境の充実を図る事業を展開していくということ</p>

	<p>で、建付けをしたが、新たな課題が発生すると、それに対応する新たな事業の作り込みを行う場合がある。その際には、担当部署が変わるということもあるので、追加することはある。</p> <p>現状は、総合振興計画を策定した際に、建築住宅課の事業だけしか構成されてなかったのが、このような状況にあるが、福祉の観点で住宅政策を基本目標の中に盛り込んでいなかったがために、建築住宅課が行う市営住宅の中で、住宅困窮者に対して市営住宅を提供すると位置づけて、実施している。</p>
<p>委員長</p>	<p>実際の外部評価ヒアリングに出席されるのは、建築住宅課の職員で、その方々は所管する事業の話をされるが、施策として見た場合は、そこだけでは足りないという議論になりそうである。</p> <p>ただ、事業がないのかということ他の部署で事業を実施しているのかもしれない。再掲の事務事業となるのかも分からない。それとも認識がないから担当課のここに名前が載っていないだけかもしれない。</p> <p>すぐには答えが出ないと思うが、大事なところであると考えている。</p>
<p>事務局</p>	<p>例えば、施策13「生活困窮者支援の充実」の中では、生活困窮者への住宅支援も入っており、それは生活保護制度の下で行われている事業になるかと思うが、大きな意味でいえば、施策22「安心して生活できる住環境の充実」の再掲の事務事業として取り扱う方が望ましいという意見になるようであれば、再掲の事務事業として、位置づけていく必要があると考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>本来は、施策をどこの部署がそれぞれの役割を分担し、連携していくのか議論が先にあり、結果として施策評価シートの中では、再掲の事務事業とする、または再掲の事務事業ではなく、事務事業として記載するという議論になっていくものである。</p>
<p>委員</p>	<p>住宅施策の対象については、確かに生活保護を受給されている方が思い浮かぶかもしれないが、それだけで良いのか。</p> <p>例えば、障害をお持ちの方が親亡き後を考えてグループホームなどで生きていくことを選ぶなど、もう一つの住のあり方になっていくということもある。</p>

	<p>それから、年金などを高齢者が受給されている場合、生活保護を受ける状況ではないが、民間住宅を借りることはなかなか難しい、いわゆる狭間といわれている層の方々がいて、一定のボリュームでニーズがある。ニーズ重視で見ると、ニーズごとのカテゴリーに対して、この対策でカバーするといえは、施策から考えていることになるが、住宅を供給するサイドからすると、住宅やオフィスを使ってどのような事業を行うかという観点になり、その中で、できることに限った話になる。</p> <p>委員 施策全体をまとめ、方向性を示す部署として施策 2 2 では、建築住宅課としか書かれていないが、安心して生活できる住環境の充実という観点からすると、それだけで良いのかという問題がある。</p> <p>例えば、ある部署が統括して全部を決め、建物以外がメインになる事業はその部署でやってくださいなど、イニシアティブをとって進めている部署は、どこなのか。その部署があることで、この施策の方向性が決まると考えるが、それが分からないので、このような疑問点が出てくるのではないか。</p> <p>そのような観点から、さきほど、私は不動産課になってしまうと言ったわけである。</p> <p>もちろん、数年間は何をやる、その後、数年間は、このように進めていくという方向性が見えていて、その中で、現状の体系はこれであるという整理ができているのであれば、それで良い。</p> <p>だからこそ、枠組みや方向性を示す部署について、共通認識であると、施策がより広がりを持っていくと考える。</p> <p>そういう意味でもロジック・モデルシートは、全体を見渡すツールとして必要であると感じた。</p>
委員長	<p>ロジック・モデルシートは、7月末頃に出てくるということなので、それを見てからヒアリングに臨んでいただきたい。</p>
委員長	<p>特に意見がなければ、次の施策の説明に移って良いか。</p>
委員一同	<p>異議なし</p>

事務局	<p><施策26「魅力ある公園づくり」> 資料2に基づき、事務局が説明を行った。</p>
委員	<p>環境空間における緑地と緑道、J R 東日本と継続して協議していくと記載がある。テレビでは、パリやベルリンで高架道路下に健康のための自転車専用レーンを整備したという話が出ていた。市に要請して、鉄道会社と折衝するようにお願いしたというようなことが盛んに言われている。</p> <p>戸田市の場合は、河川敷や彩湖・道満グリーンパークに、緑地が集まっているが、埼京線は、市の中心を貫いており、高架下の周辺に環境空間があるが、現在、高架下は、ほぼ駐車場にしか使われていない印象である。</p> <p>高架下が公園のような場所になるかという点について、J R 東日本と協議するのか。具体的な協議内容については、施策評価シートなどには、出ていないので、分からないが、どのような方向で、何を協議するのか。方向性を持っていないことには、協議もできないと思うので。</p> <p>協議の方向性がまだ定まっていないのなら、様々な計画の策定段階で市民に諮ってみたいことがあっても良いのではと感じた。</p> <p>施策における取組の方向性については、第5次総合振興計画の冊子などに書いてはあるが、実際の動きである事務事業として出てきたのが、ちびっこプールの補助金だけでは寂しい。</p> <p>それも重要ではあるが、もっと他にもあるのではないか。</p>
事務局	<p>J R 東日本との協議については、長年に渡って実施しているため、方向性とそれに伴う結果について、整理されたものをお示しできるようにしたい。</p>
委員	<p>今後、どのような方向で進んでいくのか、どのような計画か。令和4年度としては出ていないが、今後の予定など。今回は、令和4年度の評価ではあるが、計画全体の中にある令和4年度の計画の話として。</p> <p>総合振興計画全体の中で見ていかないと、令和4年度は具体的に何もしないから止まっているとにならないようしないといけない。</p>
委員	<p>説明の中で、民間事業者に委託し、社会実験をしたという話については、</p>

	<p>足元では様々なアイデアの募集をしたということであった。市長の肝いりだと思うので、いろいろな動きがあると思うが、それ以外の取組などの情報について、まとめていただきたい。</p> <p>公園事業はいろいろな取組があると思うので、それも踏まえて評価をしたいと思う。</p>
事務局	承知した。
委員	全体的な話だが、施策評価シート5. 事務事業の検討欄について、例えば、事務事業の3つ目のちびっこプールに関する説明で、「ちびっこ」で切れている。他のページも文章の途中で切れている。
事務局	<p>事務事業評価シートの記載内容を転記しているが、スペースの都合で切れてしまっている。</p> <p>具体的には、事務事業評価シートの1ページ目中段の事業内容を参照していただきたい。</p>
委員長	特に意見がなければ、次の施策の説明に移って良いか。
委員一同	異議なし
事務局	<p><施策3 1 「地域資源を活用した観光振興の推進」 ></p> <p>資料2に基づき、事務局が説明を行った。</p>
委員	<p>定義の確認だが、ふるさと祭りは対象になるのか。朝市や戸田ボートなど、対象になるイベントは何か。</p> <p>それに絡めて、観光地入込客数は、いろいろなイベント目的で来た人が対象になっているのか。そこの関係性はどのようになっているのか。入込客数の基準を確認したいが、どこを見ればわかるのか。</p> <p>どのイベントが対象になるのかなど、観光地入込客数の集計方法について、確認をしたい。</p>

事務局	<p>また、フィルムコミッションは、映画だけではなく、ドラマなども全て実施しているということで良いか。そのような情報はどこに載っているのか。</p> <p>戸田市水と緑の公社のホームページに実績が掲載されているので確認していただきたい。</p> <p>観光入込客数については、観光庁が集計しており、戸田市内にある観光施設に会場した人数と戸田市内で開催したイベントへ参加人数が対象になっている。戸田市の場合は、指標の目標値にある130万人ほどのうち、平成30年度当時、祭りなどのイベント関係で約56万人、観光地点では、約80万人で、おおむね彩湖・道満グリーンパークの人数かとは思われる。</p> <p>ふるさと祭り以外のイベントを観光客数としては、イベント各種に参加いただいた方々の人数になるので、戸田市がどのイベントを対象にしているかを確認して回答させていただきたい。</p>
委員	<p>目標としてコントロールできる数字なのか。外的要因が多いのではないかという観点からも見てみたいと思う。</p>
委員	<p>地域資源という言葉は、いろいろな施策で使われており、施策31では、観光振興のために使っていくということになっている。</p> <p>施策25や施策7でも同じように地域資源を使って文化を高める、誇りを持つようなことになっているが、施策31は観光振興にターゲットを絞り、同じように地域資源を使いながら、ということになっている。</p> <p>地域資源を活用する方法の一つが観光振興であって、地域資源とは何か、地域資源をより進化させるためにどのようにすべきかなど、全体に見ている部署は、どこか。</p> <p>端的にいうと、戸田公園のボートコースや彩湖・道満グリーンパークは埼玉県の管轄であるが、戸田市内にあるので、有償や無償などの条件は様々だが、我々はそれを利用させてもらっている。そのような中で、例えば市として、何かもっと大きな取り組みとして、埼玉県管轄から戸田市の管理に変えるような方向に持っていくなど。</p> <p>それから、荒川河川敷の空間利用に関しては、国交省の荒川河川事務所と交渉しながら、新たな取組を行っていくことはないのか。現状は、野球場な</p>

事務局	<p>どに使用している程度である。</p> <p>戸田市の地域資源全体についての方向性を示すようなことは、やっているのか。やる予定があるのかという点も分かると明確になり、評価がしやすいと考える。</p> <p>施策31は、地域資源を活用した観光振興の推進という施策であり、ボートコースについては、現在、埼玉県管轄になっているが、市が有している施設としてなどを地域資源と捉え、観光振興に活用することが、この施策の展開の部分になる。</p> <p>また、戸田公園のボートコースについては、埼玉県から管理業務を受託し、市が管理することなども含め、様々な方法がある。施策31というよりは、個々の施設の施設管理の中で、検討を進めている部分であり、施策31は既に有している資源をしっかりと有効活用しながら、市内外から人を呼び込んで市民にも愛着を持たせるというものである。</p>
委員	<p>ボートコースは、一例である。地域資源の新たな方向性やその検討についての記載がほとんどないので、施策としてみた場合に、どうかと思ったところである。</p> <p>花火大会にしても、花火大会の所管課が荒川河川事務所と協議しているのであれば、もっと包括的に荒川河川事務所と協議するなどできるのではないか。</p> <p>施策26はJR東日本と協議をすると記載している。関係機関との連携や協議について施策としても取り上げていかないと、こういうことをやっていきまうと言うだけになってしまう。第5次総合振興計画と銘打っているのであれば、そのぐらいの発想や意気込みでやっていくべきではないか。</p>
委員長	<p>今の点については、戸田市のシティーセールス戦略などにもうたわれているのではないか。</p>
事務局	<p>総合振興計画の基本目標ではなく、計画を推進するための考え方2「情報共有・発信の強化」の取組として、シティープロモーションの観点で戸田市は地域資源を大事にしていくとしている。地域の魅力であったり、観光振興</p>

<p>委員</p>	<p>については、シティプロモーションの考え方に則って、市民・行政・事業者それぞれで、行政主導だけではなく、全体で取り組んでいくものとしている。</p> <p>そういった意味でも施策31の展開というよりは、シティプロモーション戦略という大きな枠組みの中で、検討するというような形で行っており、施策31に関しては、既に有している資源を活かしてどのように進めていくかというすみわけになっている。</p> <p>全体を通じての質問になる。施策31に戸田市に住み続けたいと思うということが書いてあるが、土地などの価格に見合うのかという観点もある。</p> <p>つまり、土地の価格がどんどん上がっていくと、家賃や固定資産税なども含めて費用が増えることを懸念し、土地の安い地域に引っ越していくという事例もある。費用に見合っていると思うから、ここに住み続けたいという経済的な面もあり得る。</p> <p>このことから、住み続けたいという施策の設計において土地などの価格に見合うという考え方がどれだけ入っているのかということは、大事な論点ではないかなと思っている。</p> <p>余裕がある方が住んでいるのであれば、土地の価格が上がるような方向に取組を進めていき、ブランド化していくということもある。そうでない方法もあり得る話なので、住み続けたいということを設定するに当たって、どのようなデザインがされているのかということを確認しておかないと議論が混乱してしまう。</p> <p>施策26に関しては、JRと交渉することが明確にされている。</p> <p>ある意味、JRに了承してもらうこと、政治力を使うことが計画に書いてあるが、施策31に関しては、既存の地域資源が、全て市の所有ではない場所、つまり、関係機関と交渉して、了承してもらう作業が入っていることになる。</p> <p>誰に対して何を交渉するのかということを理解した上で、議論しないと混乱してしまうのではないかと。</p> <p>それから、施策26に関して、JRと交渉するというのは、明確だが、施策31では明確になっていない。</p> <p>施策9でも、新型コロナウイルス感染症対策を振り返り、評価をするとい</p>
-----------	--

	<p>うことだが、埼玉県南部保健所が戸田蕨の管轄であるので、新型コロナウイルス感染症に関する対応策を考えるときに、県あるいは市が、なんらかの費用負担をして南部保健所に実施してもらうことなどがあつたのか。</p> <p>どの枠組みで議論したら良いのかを、ほんの短い時間でいいので整理してからでないとならなくなってしまうのではないかと。</p> <p>例えば、ワクチン接種コールセンターの設置は市だが、ワクチンは国が配当してから来る。PCR検査については、保健所で対応するものだが、市の対応が悪く、PCR検査ができなかったというようなことなのか。少し整理しておかないと分からないまま議論してしまう可能性がある。作業が可能かどうかにもよるが、いかがか。</p>
事務局	<p>関係機関の協力があつて、はじめて事業が展開できる部分もある。関係機関にはどのようなものがあり、どういった交渉して進めていたか、大事な観点かと思うので、ヒアリング概要説明の際に、端的に説明させていただき、その後、ヒアリングの中でも回答できるように準備したいが、資料を事前に準備することは、難しいと考える。</p>
委員	<p>総合振興計画であるので、当然、関係機関の協力を得て、実施するというような記載もあるはずだが、関係機関の意思決定を拘束することは、市としてはできないので、交渉になる。</p> <p>そもそも、関係機関が納得した上で進めるということだが、あたかも全てを市が管理できるような書きぶりになってしまうということがある。</p>
委員長	<p>施策3-1のヒアリング時間は、1時間であるため、本当は、できる限り事前に資料いただきたいところだが、イベントが近づいていて、その準備に追われているそうなので、できる範囲でお願いしたい。</p>
委員長	<p>特に意見がなければ、次の施策の説明に移って良いか。</p>
委員一同	<p>異議なし</p>

事務局	○議題（２）今後の事務スケジュールについて 資料３に基づき、事務局が説明を行った。
委員長	意見や質問等はあるか。
委員一同	なし
委員長	<p>戸田市は外部評価委員会を１０年以上行っており、歴史と伝統がある。以前の総合振興計画の時に、外部評価委員会で評価対象となった施策で、今回の対象施策と内容的に類似したものがいくつかあると思うが、当時の外部評価委員による外部評価シートと議事録が残っていたら、参考までにデータを提供いただきたい。</p> <p>その時は、どのような議論があったのかが分かれば、参考になるので、検討いただきたい。</p> <p>４ 閉 会</p>

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和5年度第6回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和5年9月22日（金）午前10時00分～午前10時40分
開催方法	Web会議
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 （委員）	委員 興松 敬史 委員 石田 真由美 委員 宮崎 仁美 委員 芳賀 良 委員 長谷川 孝雄
欠席者氏名 （委員）	無し
説明のため 出席した者	無し
事務局	山本課長 石嶋主幹 北田副主幹 野本主任
議 題	(1) 答申書（案）について (2) 今後のスケジュールについて
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	次第 【資料1】 答申書（案） 【資料2】 答申書別紙（案） 【資料3】 今後のスケジュールについて 【参考資料】 各施策の外部評価結果一覧

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員長	<p>1 開 会</p> <p>○委員長挨拶</p> <p>本日の目的は、本委員会としての答申をまとめていくことである。検討すべき項目は、答申の原案に加えて各施策3項目ずつの合計18項目となる。非常にタイトになるため、円滑な進行に協力いただきたい。</p>
事務局	<p>2 議 事</p> <p>(1) 答申書(案)について</p> <p>資料1及び資料2に基づき、説明を行った。</p>
委員長	<p>意見や質問等はあるか。</p>
委員一同	<p>なし</p>
委員長	<p>続いて、資料2の各施策の委員会の評価欄について審議を行う。</p> <p>1施策15分程度の限られた時間になるが、「委員会の評価」を決定できればと考えている。</p>
委員長	<p><施策4></p> <p>①事務事業の妥当性</p> <p>評価結果は、A：3件、B：4件、C：0件、D：0件である。</p> <p>加重平均：3.43であることから、委員会の評価を「B改善(小)」として良いか。</p>
委員一同	<p>承認</p>
委員長	<p>②施策指標の妥当性</p> <p>評価結果は、A：3件、B：4件、C：0件である。</p> <p>加重平均：2.43であることから、委員会の評価を「B改善(小)」として良いか。</p>

委員一同	承認
委員長	<p>③資源の方向性（予算）</p> <p>評価結果は、増加：4件、維持：2件、縮小：1件である。 加重平均：2.43であることから、委員会の評価を「→維持」として良 いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>③資源の方向性（人員）</p> <p>評価結果は、増加：2件、維持：5件、縮小：0件である。 加重平均：2.29であることから、委員会の評価を「→維持」として良 いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>以上で、施策4を終了する。</p> <p><施策9></p> <p>①事務事業の妥当性</p> <p>評価結果は、A：1件、B：6件、C：0件、D：0件である。 加重平均：3.14であることから、委員会の評価を「B改善（小）」と して良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>②施策指標の妥当性</p> <p>評価結果は、A：0件、B：7件、C：0件である。 加重平均：2.00であることから、委員会の評価を「B改善（小）」と して良いか。</p>

委員一同	承認
委員長	<p>③資源の方向性（予算）</p> <p>評価結果は、増加：0件、維持：4件、縮小：3件である。 加重平均：1.57であることから、委員会の評価を「→維持」として良 いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>③資源の方向性（人員）</p> <p>評価結果は、増加：0件、維持：5件、縮小：2件である。 加重平均：1.71であることから、委員会の評価を「→維持」として良 いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>以上で、施策9を終了する。</p> <p><施策16></p> <p>①事務事業の妥当性</p> <p>評価結果は、A：3件、B：3件、C：1件、D：0件である。 加重平均：3.29であることから、委員会の評価を「B改善（小）」と して良いか。</p> <p>委員</p> <p>私は「C改善（大）」と評価した。コメントにも記載しているが、戸田市 は分譲マンションが多いことから、町会・自治会の未加入率が高く、それに 紐づく自主防災会比率が50%程度という話があった。</p> <p>9月2日付の日経新聞に防災の日特集でデータがでていたが、全国の自主 防災組織率が84%となっているとのことであった。定義が異なり、比較は できないかもしれないが、これこそが本質的な課題ではないかと感じたところ である。</p> <p>加重平均を用いた結果で「B改善（小）」は、了解するが、意見について</p>

	<p>は、会議録に残していただきたい。</p>
委員長	<p>委員の意見については、承知した。</p> <p>それでは、改めて確認するが、委員会の評価は、「B改善（小）」として良 いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>②施策指標の妥当性</p> <p>評価結果は、A：2件、B：4件、C：1件である。</p> <p>加重平均：2.14であることから、委員会の評価を「B改善（小）」と して良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>③資源の方向性（予算）</p> <p>評価結果は、増加：0件、維持：7件、縮小：0件である。</p> <p>加重平均：2.00であることから、委員会の評価を「→維持」として良 いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>③資源の方向性（人員）</p> <p>評価結果は、増加：0件、維持：7件、縮小：0件である。</p> <p>加重平均：2.00であることから、委員会の評価を「→維持」として良 いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>以上で、施策16を終了する。</p> <p><施策22></p>

委員長	<p>①事務事業の妥当性</p> <p>評価結果は、A：3件、B：2件、C：2件、D：0件である。 加重平均：3.14であることから、委員会の評価を「B改善（小）」として良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>②施策指標の妥当性</p> <p>評価結果は、A：3件、B：2件、C：2件である。 加重平均：2.14であることから、委員会の評価を「B改善（小）」として良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>③資源の方向性（予算）</p> <p>評価結果は、増加：2件、維持：5件、縮小：0件である。 加重平均：2.29であることから、委員会の評価を「→維持」として良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>③資源の方向性（人員）</p> <p>評価結果は、増加：0件、維持：7件、縮小：0件である。 加重平均：2.00であることから、委員会の評価を「→維持」として良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>以上で、施策22を終了する。</p> <p><施策26></p> <p>①事務事業の妥当性</p>

委員長	<p>評価結果は、A：5件、B：2件、C：0件、D：0件である。 加重平均：3.71であることから、委員会の評価を「A妥当である」として良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>②施策指標の妥当性 評価結果は、A：1件、B：5件、C：1件である。 加重平均：2.00であることから、委員会の評価を「B改善（小）」として良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>③資源の方向性（予算） 評価結果は、増加：1件、維持：6件、縮小：0件である。 加重平均：2.14であることから、委員会の評価を「→維持」として良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>③資源の方向性（人員） 評価結果は、増加：0件、維持：7件、縮小：0件である。 加重平均：2.00であることから、委員会の評価を「→維持」として良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>以上で、施策26を終了する。</p> <p><施策31></p>
委員長	<p>①事務事業の妥当性 評価結果は、A：1件、B：5件、C：1件、D：0件である。</p>

	<p>加重平均：3.00であることから、委員会の評価を「B改善（小）」として良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>②施策指標の妥当性</p> <p>評価結果は、A：0件、B：7件、C：0件である。</p> <p>加重平均：2.00であることから、委員会の評価を「B改善（小）」として良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>③資源の方向性（予算）</p> <p>評価結果は、増加：1件、維持：6件、縮小：0件である。</p> <p>加重平均：2.14であることから、委員会の評価を「→維持」として良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>③資源の方向性（人員）</p> <p>評価結果は、増加：0件、維持：7件、縮小：0件である。</p> <p>加重平均：2.00であることから、委員会の評価を「→維持」として良いか。</p>
委員一同	承認
委員長	<p>以上、「議題（1）答申書（案）について」を終了とする。</p>
事務局	<p>（2）今後のスケジュールについて</p> <p>資料3に基づき、説明を行った。</p> <p>次回の第7回外部評価委員会まで日数が限られていることから、最終的な確認については、委員長に一任いたしたいと考えている。</p>

委員長	最終的な確認について、委員長一任という提案がなされたが意見や質問等はないか。
委員一同	なし
委員長	1点、確認したい。昨年度に続き、外部評価委員会が出された様々な意見について、AやBといった形では個々の意見が見えなくなってしまうが、答申書には記述される。本委員会が出された意見が予算編成にどのように活用されているのか。あるいは、今後どのように活用されていくのかという点について教えてほしい。元々、答申の時期を前倒ししたのは、予算に活かしていくという狙いがあったと思う。そのあたりが少し気になったので確認したい。
事務局	<p>予算案の編成に合わせて答申を前倒ししたということで、今年度は11月に答申を行う予定である。本市は11月に予算案をとりまとめていくので、各部局には事前に答申（案）の状況を共有しつつ、外部評価委員会の意見を踏まえながら、予算（案）の編成を進めているところである。</p> <p>また、外部評価ヒアリングを受けた部局においては、委員の皆様からいただいた意見を活かし、来年度に反映できる部分については、随時、調整を行っているところである。さらに、それを確実なものにするものとして、答申書の内容を踏まえながら、予算案の編成を行っていく流れとなっている。</p> <p>3 閉 会</p>

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和5年度第7回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和5年11月14日(火) 午前9時00分～午前9時58分
開催方法	公室
出席者氏名	市長 菅原文仁 副市長 秋田大輔 委員長 佐藤徹 副委員長 長野基 委員 興松敬史 委員 石田真由美 委員 宮崎仁美 委員 芳賀良 委員 長谷川孝雄
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	無し
事務局	企画財政部 吉野部長 清水次長 共創企画課 山本課長 石嶋主幹 北田副主幹 野本主任 薄葉主事
議 題	答申及び意見交換
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	・次第 ・答申書及び別紙

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
市長	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>戸田市外部評価委員会から市長への答申及び意見交換について (市長から以下のとおり挨拶を行った後、各委員から報告が行われた。)</p> <p>昨年度に引き続き、任期2年目となる今年度についても、外部評価委員会として評価をいただき、佐藤委員長をはじめ、委員皆様に感謝申し上げます。</p> <p>健康、教育、危機管理・防災、公園分野などは、部局横断的な取組である3大プロジェクトとして推進している重要な分野でもあり、委員皆様からの率直な意見や非常に大事な指摘をいただき、それを報告書という形にまとめていただいたものと認識している。</p> <p>市としても、核心をつくような意見をいただいたが、非常に大事なことであるので、今後の改善に活かすべく、予算や事業の改善に結びつけていければと考えている。</p> <p>市の目指す将来のビジョンである『このまちで良かった』みんな輝く 未来共創のまち とだ」を達成するためにも、今後も皆様と連携しながら、より良い市政となるように進めていきたい。</p>
委員	<p>今回、第5次総合振興計画で掲げた32施策のうち、2年間、外部評価委員の立場から意見をさせていただいたが、32施策に対して12施策にしか意見することができなかった。対象施策は多数決等で決定したこともあり、私自身が選びたかった施策が残されたところが少し心残りである。</p> <p>一方で、内部評価の初年度に対し外部評価を行えたことは、良いタイミングであった。フレッシュな課題にフレッシュな時期に意見を述べることができたのは良かった。計画期間が長いため、今後の改善に少しでも貢献できればと考えている。</p> <p>公募市民としての参加ということで、その意味では、まさに共創の仕事ができたと感じている。また、自治という基本理念の観点では、市民活動としては、大変高度な場に参画できた。ヒアリングでは、担当部局からすると、</p>

<p>委員</p>	<p>厳しいと感じるような意見も随分言わせていただいたため、困ってしまったかもしれないが、職員と直に接することができ、行政の裏側や大変さを市民として感じる事ができたことが収穫である。今後、PDCAを回していただき、改善活動に少しでも役立てていただければと思う。</p> <p>外部評価委員会の運営で、非常に印象に残っていることが2つある。</p> <p>1つは、昨年度の第8回外部評価委員会で、担当部局から答申書に対する行動計画が提示され、委員1人ひとりの意見に対し、細かく回答があったこと。厳しい意見もあったと思うが、意見それぞれに対するアクションが出てきたことは、非常に評価できることであると考えます。</p> <p>もう1つは、今年度の第1回外部評価委員会で外部評価委員会の方向性について事務局から説明があった。委員からの多様な意見や問題提起に対し、事務局が1つひとつ丁寧に対応し、可能なものは実施時期まで明記していた。これも非常に評価できることと感じた。事務局は自身の対応は言うに及ばず他の部署に交渉し、事前調査や質問への回答を得るなど、非常に苦勞も多いと思うが、事務局の方々が骨身を惜しまずに作業をしていただいたことに、感謝申し上げます。我々、委員にとっても、励みになった。</p> <p>第5次総合振興計画の進捗を外部評価という観点から見ると、各施策や事務事業に対して担当部局の皆さんが真摯に取り組んでいると感じたが、その中で3点気になることがあった。</p> <p>1つ目は、施策の基本的な方向性の理解や解釈について、疑問に感じるところがあった点である。施策の解釈は複数あっても良いと思うが、その解釈に至った過程の説明が欲しかった。2つ目は、計画期間10年の総合振興計画にもかかわらず、本当に10年を見据えた事業なのか、首をかしげる点があった。10年先を見据えて、「何年にどこまで」といった時間経過を勘案した計画を提示してほしい。3つ目は、施策を構成する事務事業の数にばらつきがあったことである。極端な例で言うと、1つの施策に事務事業が20件あるものや3件しかないものがあった。さらに、他の施策の事務事業だが、本施策にも関連する事務事業、いわゆる再掲の事務事業の取扱いが明確になっていないのではないかと感じた。</p> <p>総合振興計画の策定時に、施策を構成する事務事業をどのように設定するかについては、非常に重要なことと考える。当初、施策担当部署が中心とな</p>
-----------	---

って事務事業を検討していくものと思っていたが、総合振興計画の策定時、基本目標と施策体系決定後に、次長級の会議で決定していたとのことである。行政上の手続きや時間的制約もあり、仕方ない部分もあるかもしれないが、計画の策定に関わった部門から事業を実施する部門への引継ぎ、PlanとDoの間の引継ぎが本当に上手くいっているのかどうか気になった。さきほどの問題点もそのような点に理由の一端があるのではないかと感じたところである。

最後に、ヒアリングを通して、若い職員が非常に歯切れの良い対応をされており、委員として見ていて清々しい気持ちになった。今後、総合振興計画の見直し作業などがあると思うが、そのような場面で積極的に若い職員を参加させ、活力や新鮮な視点を取り入れていただきたいと思った。若い職員も10年後には、中核になっていると思うので、そういった職員を総合振興計画に係る事務や活動に積極的に参加させるべきと感じた。

委員

今年度も無事に答申という大切な節目を迎えることができた。昨年度はオンライン方式での開催が多かったが、今年度は対面方式で開催できたことで、より熱い議論、そして活発な意見交換がなされたものと確信している。

私が感銘を受けたのは、対象となった部局職員の方々、そして事務局による的確な回答と丁寧な資料作成であり、非常に明快で理解しやすかった。

つたない私見を申し上げますと、戸田市は教育が全国的に有名だが、近い将来、観光も大きく発展しそうな予感がする。ボートコース、戸田公園、彩湖、戸田橋など、戸田市には観光地が多くあるので、戸田市の観光事業も伸ばしていきたい。

最後に、「まち、ひと、しごと」の3つの歯車がしっかり噛み合い、第5次総合振興計画が進行することで、戸田市がますます発展していくことを祈念する。

委員

2年に渡り、外部評価委員をさせていただいたことに感謝申し上げます。あまり細かいことを知らずに飛び込んでしまいましたが、戸田市の様々な事業に対し熱心に取り組み、市の発展のためにとっても努力している市職員の姿を見て、ますます戸田市に対して愛着を持った。

私は、特に教育分野に関心があり、昨年度から始まった小学校の「ぱれっ

	<p>とルーム」にも携わらせていただいた。これまで教育の現場を見ながら、いろいろと経験した中でも、子ども達を救うという観点からも、とても良い取組だと感じている。そういった取組にも注力しつつ、戸田市の教育分野をさらに進めていただければと願っている。</p>
<p>委員</p>	<p>施策担当部局の皆様の協力のおかげで、本日は無事に答申できたことにお礼申し上げます。</p> <p>私は、数年間、外部評価委員として活動したが、評価対象の分野がとても広く、学識経験者と言いながらも、思ったことをそのまま質問するような形になってしまった。そのような中でも市職員の方々は、とても丁寧な対応や説明をしていただいた。</p> <p>最後に、評価制度について、私の意見を述べさせていただくと、法定受託事務を実施している事務事業と市の裁量のある事務事業は、分けて評価した方が、委員として評価しやすいのではないかと、今年度に関しては特に感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>今年度は、第5次総合振興計画1年目の実績を振り返り、今後の取組に活かすという局面での評価であった。評価の仕方としては、各部局から詳細なロジック・モデルシートを提出していただき、それを基に実績評価を振り返った。</p> <p>気になった点としては、ロジック・モデルシートで設定している目標と総合振興計画上の目標にズレが見受けられたことだ。計画は、技術や経済の変化により、目標が陳腐化していくことがあるので、目標を変えること自体は合理的であるが、実績評価1年度目の局面で、陳腐化が既に起きているのであれば、策定時に問題があったかもしれないし、目標を変えているのであれば、変わった理由を説明する必要がある。それを理解した上で、評価することだったと思うが、行政実務のニーズを反映して目標を変えたのか、別の理由によるものなのかという点について確認が難しかった。そのような点を共有する機会があれば良いと感じた。</p> <p>担当部署の仕事の目標は、ロジック・モデルシートの作成ではなく、サービスを提供するためではあるが、業務の状況を委員と共有した上でコミュニケーションを図っていくことが基本であり、その際に見受けられた目標のズレ</p>

<p>委員長</p>	<p>レについては、評価をする上で課題であり、考えさせられる点であった。</p> <p>まずは、今年度も外部評価委員会に関わる皆様の協力に感謝申し上げる。特に、事務局の皆様については、非常に丁寧に資料作成からアテンドまでしていただいた。それから、委員の皆様にも非常に活発に議論していただき、本当に助けられた。</p> <p>印象に残ったことを2点申し上げる。</p> <p>1つ目は、外部評価委員会に政策の設計図であるロジック・モデルを導入して、それを基に施策の担当部局が施策概要をプレゼンしていただいた。以前は、施策概要の説明をするはずが、施策に紐づいている個々の事業の説明に終始することが多かった。今年度の6施策については、ロジック・モデルシートを使い、上手く説明していただいたので、分かりやすかった。これは、EBPMへの第1歩である。</p> <p>なかなか、「事業ありきの発想」から抜け出せないことがあるが、何を目的として事業をやっているのかや、事業はあくまでも手段であり事業を行うことが目的ではないことを認識する上では、ロジック・モデルが重要となる。</p> <p>外部評価の場では、ロジック・モデルが導入された。だが、もしかしたら、外部評価委員会用に付け焼刃でロジック・モデルを作り、プレゼンの練習をしているかもしれない。普段の業務の中で、ロジック・モデルシートがどのように使われているかは、分からない。戸田市は学校教育分野におけるEBPMの先進自治体であることは間違いないので、市長部局でも展開していただければというのが、私の思いである。</p> <p>2つ目に、具体的な例を挙げると、教育委員会事務局所管の施策4「世界で活躍できる人間の育成」があるが、ロジック・モデルシートを使い、非常に上手く説明をされた。たくさんの事業があり、ものすごく膨大なロジック・モデルシートになっていたが、上手く説明をされた。一方で、施策名称の「世界で活躍できる」とはどういうことかについては尋ねたが、説明を聞いても「教育環境の充実」と変わらなかった。「世界で活躍できる」については、当時、総合振興計画を策定した時の職員が今ここにおりませんと、正直な回答をいただいた。そうであっても、人事異動の際に引継ぎがあるはず。人事異動の引継ぎでは、どの事業をどの課で行うか、あるいはどのように行うかについては、引き継がれてもその事業の目的や成果までは引き継がれて</p>
------------	---

	<p>いないことが往々にしてある。そのようなことがあったのかもしれない。重要な施策概念の部分であり、そこについては管理職の方々がしっかりと回答いただけたら、さらに良かった。</p> <p>最後に、施策を実現するためには複数の部局が連携していかないと、施策が目指す姿を実現することは難しい。他の委員からも発言があったように、総合振興計画を策定する過程において、施策が目指すゴールを実現するためにどのような連携が必要かを関係課と一緒に議論して初めて、それが自分達の実現すべき施策であるという認識を持つことができるのではないかと。しかしながら、事業ごとに見て縦割りになってしまう傾向があり、それを計画策定後の進行管理や評価の場でも引きずってしまっているのではないかと。</p>
<p>市長</p>	<p>委員の皆さんからいただいた話を通じて、次の課題や方向性が明確になったと感じている。日々の仕事に追われ、重要な施策を意識する余裕がない中でも、ゆとりを持ち意識できるようにしたい。特に所属長は、そのような時間があれば、ロジック・モデルの考え方を取り入れ、部署間連携や意見交換などを行う時間に充てることができる。</p> <p>委員長から話があったように、ロジック・モデルを自分達で作ることがトレーニングにもなり、次期総合振興計画の策定時にも役に立つと考える。本来であれば、常にそういった点を意識しなければならないが、実際にはそこまで、できていないところもあると改めて感じた。</p> <p>また、法定受託事務や自治事務などの切り分けについても重要であると考えている。やらなければならない事業についても、もちろん評価しなければならないし、自主的に行う事務の目的などを見極めることが大切である。</p> <p>課題はまだまだ多いが、皆様の意見をしっかりと受け止め、また、若い職員が頑張っていると評価していただいたことも励みになったのではないかと。職員と一緒に信頼に足りる行政を目指して、頑張っていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>広い意味で医療に関連する施策の領域まで踏み込んだ自殺対策やワクチンなどについて評価することが難しかった。医学的な知識や、自殺対策では個人の人権擁護だけでなく、医学的な観点から考えることもあった。また、今後の方向性を討議する際に、生活者側の自己負担分、裏返せば、公金をどれだけ投入するかという問題が難しかった。今後の方向性について議論する</p>

と感じた。先ほど市長が話されたように、P D C Aを回す要の管理職などに時間的な余裕があるか、計画から実行に上手く移せているかが一番の課題と考える。別の見方をすれば、このつなぎ部分が上手く回るように管理していくことが管理職や各種委員会の役割なのかもしれない。全体がうまく繋がれば、さらに良くなると思っている。職員の方々は一生懸命に取り組まれているが、計画時の思いが実行する際に伝わっていないと、無駄な労力になってしまうおそれがある。そうならないために、計画した内容や目標について共有認識を持つことが必要になってくるが、この観点から見ると、市長の号令というのは、とても重要なことだと思う。

3 閉 会

	<p>際、例えばワクチンの費用負担を減らす方向にすべきだと議論するとなれば、社会保険や公金から投入することになるので、それは市が投入する資源を増やすことになる。そのような質問については、曖昧な回答にならざるを得なかったのだろうと、今、振り返ると思う。</p> <p>また、近隣市や県からの補助の問題や東京都との比較など考慮に入れると、より複雑になり難しかった。自己負担のあり方や公金からの資源増加の議論については、今年度では特に悩ましい問題であった。</p>
市長	<p>最近、東京都が带状疱疹のワクチン助成を行っており、さらに、各区が追加で助成を行っている。実施する場合にはワクチンの定期接種化や補償に関する問題など考慮すべき事項が多くある。また、東京都が実施しているにも関わらず戸田市が助成できない理由としては、圧倒的な財政力の差も挙げられる。近隣市と比較しながら、様々な努力をしても、東京都に隣接する戸田市は、埼玉県だけでなく東京都と比較されることが多い。そういった点からも公金投入の判断が難しいと感じることがある。</p>
委員長	<p>特に、給付事業などは同調圧力がかかりやすい面がある。</p>
市長	<p>あの自治体では実施しているのに戸田市では実施しないのかという意見や市としてどこまで公金を投入すべきかといった判断だけでなく、評価をする上でも難しいと感じている。</p>
委員長	<p>本来は、効果がどうあるべきか、有効であるかという観点が重要であるが、例えば、带状疱疹ワクチンであれば、医学的なエビデンスはどうかなどの議論が置き去りのまま、別の観点からの圧力がかかりやすい。</p>
市長	<p>まさにその結果、実施せざるを得なくなってくることもある。また、子育て支援やワクチン接種など、国主導で制度が急に変わることもあり、P D C Aを回しにくく、苦慮している部分もある。</p>
委員	<p>P D C AのP l a nやD oについては、担当部署はじめ皆さん、尽力されているが、P l a nからD oへのつなぎの部分について、改善の余地がある</p>

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和5年度第8回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和6年1月30日(火) 午後4時00分 ~ 午後4時50分
開催方法	501会議室
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 (委員)	委員 興松 敬史 委員 石田 真由美 委員 宮崎 仁美 委員 芳賀 良 委員 長谷川 孝雄
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	無し
事務局	吉野部長 山本課長 石嶋主幹 北田副主幹
議 題	令和5年度外部評価報告書(案)について
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	次第 【資料】令和5年度外部評価報告書(案) 【巻末資料 資料1】答申書 【巻末資料 資料2】戸田市外部評価委員会委員名簿 【巻末資料 資料3】令和5年度戸田市外部評価委員会会議録

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員長	<p>1 開 会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>元日に能登半島地震、翌日には羽田空港での航空機事故があり、非常に悲痛的な思いで報道を見ていた。おそらく、戸田市からも北陸地方に派遣される職員がいるであろうと思うが、改めて、防災の重要性、意識を高めていく必要性があると感じた。</p> <p>第8回外部評価委員会は今年度の最終回であると同時に、任期の最終回でもある。今年度の外部評価の結果を踏まえて、今後の政策につなげていくという、言うなれば、報告書の1ページ目にあるP D C Aサイクルで言えば、C A Pの部分を踏まえた内容をまとめたものが、この報告書(案)である。</p> <p>本日も忌憚のない発言をいただきたい。</p>
事務局	<p>3 議 事</p> <p>○令和5年度外部評価報告書(案)について</p> <p>資料に基づき、事務局が説明を行った。</p>
委員	<p>各部局から答えを出してもらうのだから、事務局は大変であったものと考ええる。この結果を実際にどのように反映するか。行動計画表には、後期基本計画に反映させたいと具体的に記載している施策もあり、そのように進めていただければ、外部評価を実施した甲斐がある。</p> <p>評価について言えば、令和3年度から第5次総合振興計画が始まり、5年後に後期基本計画になるので、スパンや施策の進捗をもう少し明確に示した方が、より具体的な方向性がでてくるのではないかと。</p> <p>本来ならば、スパンや進捗に関することをロジック・モデルシートで分かるような仕組みにできれば、それを見るだけで全体的な位置づけ、他のセクションや施策との関連性、スパンなど、今後の方向性が分かるようになると良い。</p>
事務局	<p>外部評価委員会での意見等を反映するという点では、毎年P D C Aを回し</p>

	<p>ながら反映していくことが大前提である。また、次期計画を作成していく際にも、もちろん活かしていく。</p> <p>ヒアリングの際にも令和4年度事業の実施に対する意見をいただいたので、各部局で随時、年度予算に向けた検討を進めていた。検討の中で、反映できるものは、令和6年度予算に反映していくというスタンスで取り組んでいる。</p> <p>その結果を文章として行動計画表に落とし込んだ形になるが、単年度で解決できない課題も多くある。来年度から後期基本計画の策定準備を開始するが、その際には、前期基本計画の振り返りとして、外部評価委員会からいただいた内容についても、しっかり落とし込み、後期基本計画に反映していきたい。</p> <p>2点目の時間軸やスパンについては、今、提示できる解決策を持ち合わせていないが、より分かりやすい形に改善したい。ひいては、市民にとって分かりやすく、かつ、行政内部でもセクショナリズムではなく、全体で取り組んでいくということが、より分かりやすい方法を検討してまいりたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員の話にあった見せ方の部分については、確かに報告書に行動計画表が文章で記載されているが、一般市民の多くの方が行間を読むことができるようなものか。文章だけでなく、図式など、こういったものがあるのかについては、検討を要するが、一目で見て分かるような見せ方があると外部評価やその前提になっている施策評価や事務事業評価といった行政内部の自己評価の関心が高まっていくのではないかと。私も考えてみたいが、このあたりに工夫する余地があるのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>委員長の話に関連して、行動計画表などの記載については、定性的な表現になっている。何をしたいかという具体的な部分が分かりにくいので、できるだけ定量的な指標を入れて進捗状況を測っていくという点をガイドラインなどで各部局に示すなど、引き続き取り組んでいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>定量的な指標を入れることで、進捗状況を管理しやすくなるという点があるので、参考にさせていただきたい。</p>

委員	<p>この2年間で対象となった施策を担当する部局は、外部評価を経験されたわけである。全体をマネジメントする共創企画課と各部局とのやりとりについて、1点教えていただきたい。</p> <p>外部評価委員会は、多様な視点を持つ人たちが集うことで、これまでなかった新しいものを提供できればという趣旨が記載されている。新しさには、既存事業を遂行する上で培ってきた各部局の考えと異なる考えがぶつかるということも含まれている。その意味で言うと、外部評価において、やりとりをする中で、部局側が新しく発見することがある。評価側がどのように点検するかということについて、例えば、人員配置や予算配分がどのように変わったかという視点から見ていくこともあるだろうし、仕事の分担を変えたという視点から見ていく場合もある。一方で、組織配置は変わらないが、この点を気づかせたということもあるかと思う。</p> <p>そこで、質問であるが、各部局と評価結果について、やりとりをする中で、気づかされたという声などがあれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>外部評価については、外部からの視点で再評価するという仕組みになっているが、委員の話のとおりヒアリングでは、同じような視点で評価されることもあれば、新たな視点を事業に活かすこともあり、予算や配分にも、そのような意見を反映していくなど、気づかされる場面も多々あったと感じている。我々に足りない点が多々あるので、必ずしも内部評価と外部評価が一致するということはなく、毎度、気づかされることが非常に多くあり、まさに外部評価の目的の一つである。そういった意味では、各部局において、気づきの部分は非常に多くある。</p> <p>外部評価ヒアリングを8月に実施することで、そういった気づきを来年度事業に反映していくことができていると感じている。</p>
委員	<p>事務局側で評価を受けた各部局の方とコミュニケーションを図った上で、この施策では、これが気づきになったというものがあるならば、この場で共有をお願いしたい。我々も実施した甲斐が醸成されるので、ありがたい。</p> <p>特に、こんな反応が目立ったという点があれば、教えていただきたい。</p>
事務局	<p>今回、評価をいただいた中で、施策9では、健康づくりにより健康寿命を</p>

延ばしていく施策だが、部局からスマートウエルネスシティの推進という話があった。いわゆる健康増進計画という保健部門で策定する計画だが、これを「スマートウエルネスシティを作る」という方向性に切り替えるというものである。

今年度末までに策定する計画だが、その中で、朝食の問題や喫煙、運動などについても触れている。担当部署には保健部門、特に保健師を使ってどう展開していくかという観点で担当部局に事業を練ってもらった。予算査定後、3月議会で議決を得なければ、始まらないものではあるが、例えば、朝食を推進する事業や健康寿命がどうして伸びないのかという点について、研究していくような事業などを予定している。

それから、施策26については、6施策の中で良い評価をいただいたと思っている。公園をリニューアルしていくという市長の考えもあり、公園リニューアル計画に基づいて、公園をもっと魅力的な場所にしていく事業である。いわゆるハード面が目立ってしまうが、公園のハード面をただ綺麗にしていだけでなく、市民がたくさん集って、いろいろなことができる場であってほしいという考えから、ソフト事業を展開している。いろいろな社会実験を繰り返し、これまでは規制が多く、できなかったことが公園でできるようになる。また、継続的に行われるような担い手を作っていく事業などを展開していく。このような点は皆様からいただいた意見を踏まえて、予算付けをしている部分である。

皆様の意見をいただいた上で、行動計画表の中だけでは、なかなか把握できないところもあるが、事業に繋げていくというところは、少しずつ出てきているのではないかと考えている。

委員

委員になった時、令和3年度から開始した第5次総合振興計画に則した新しい事業が出てこないのはなぜかと疑問に思っていた。

ヒアリングなどを行う中で、基本的に行政がやっていく住民サービスは変わらないので、総合振興計画が新しくなっても基本的な部分は変わらない。ただ、新しく計画を作るからには、どこかが変わっているはずである。従来の事務事業を引き継ぐ場合でも、変わった部分を明確にし、理解していないと新しい総合振興計画の趣旨などが分からないのではないかと。

さきほど、説明していただいたスマートウエルネスシティ計画は良いスタ

<p>事務局</p>	<p>ートが切れたのではないか思っている。施策で、この事業がメインになるのであれば、施策の手段である事務事業の設定も変えた方が良いのではないか。また、この施策には事務事業がたくさんあるので、施策のメインとなる事業があっても良いのではないか。</p> <p>公園リニューアル計画については、初めにカルテを作ると書いてある。これが一番大事なことであり、それに取り掛かったところであると。だから、そのあとの段階に非常に期待できるというのが、評価結果であったと思う。その一方で、進捗管理が非常に難しい。カルテを作ることの進捗であれば報告ができるはずであるが、明確な答えは聞けなかった。</p> <p>今までと同じであれば、第4次総合振興計画と第5次総合振興計画では何が違うのか。そういった点をより明確にして、それを市民にも分かるようにすることで、総合振興計画がより身近なものになるのではないか。</p> <p>スマートウェルネスシティ計画については、食育や健康づくりなどあるが、健康寿命をどう延伸するかという話である。高齢者だけでなく、現役世代や子供のころから「健康は大事である」と伝えることは保健部門ができるので、いろいろな世代に同じように伝えられるようなことができるようになる計画になってほしいと思っている。</p> <p>公園については、伸びしろがどれだけあるかを見極めながら改修内容を決めていくもので、そのためにカルテを作っている。また、市内85カ所の公園に包括指定管理制度を導入するなど新しい取組も進めており、コストカットをしながら経営を維持していくという視点を取り入れた。その公園を使って健康づくりをするという2つの施策に関連する事業を行うことにより、相乗効果を生むということも考えていかなければいけない。各部局がバラバラに事業を展開していることが多かったので、それを変えていかなければいけない時代になっているので、後期基本計画を策定する際に考えていければと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>そのあたりを明確にするのが、ロジック・モデルシートであると思っている。使い方が上手くないと、部局に余計な手間と感じられては、どうにもならないので、そこをどのように進めていくかという問題もある。</p>

事務局	<p>ロジック・モデルシートについては、今年度の外部評価ヒアリングにおいて試行的に施策説明で使用した。部局が作成したロジック・モデルシートは、分かりやすさ、筋が通っているか、事務事業が網羅され連携事業が記載されているかなどについて、事務局がチェックをしているが、外部評価委員会でそれぞれの視点から評価いただくことの方が、気づきが多く良い事例であると思っている。事務局としてもロジック・モデルシートの作成する際に確認すべき観点などが蓄積できたので、他部局のロジック・モデルシートにも落とし込めるようにしたい。また、次年度の予算を踏まえたロジック・モデルシートは、今まさにメンテナンスをかけはじめている。ロジック・モデルシートが見直しの役割を果たせるように、ブラッシュアップしていく。</p>
委員	<p>一つ一つの意見が貴重なものばかりだと思うので、それを活かして、今後の戸田市の発展に努めていただきたい。</p>
委員	<p>評価対象の部局の方とは、ヒアリングの時に会いただけだが、行動計画表を作成いただいたことで、目に見えない会話をしているようであった。他市の外部評価報告書は、外部評価委員会が投げかけたところで終わっているものが多いが、戸田市の場合は、キャッチボールができてきているような形であり、分かりやすくて良いと感じた。</p>
委員	<p>一般的に外部評価は、既存事業をちゃんとチェックして、その上で新しいことをやっていければ良いと思っているが、戸田市のよう形で実施している自治体はあまりないのではないかと感じる。それは素晴らしい点である。</p> <p>その中で、さらに改善していこうという意志が感じられるので、今後に期待したい。</p>
委員長	<p>外部評価ヒアリングで対象施策の部局職員と話をする中で、職員が驚きや気づいた点が全くなかったら、外部評価委員会の存在意義がなくなってしまう。学びや気づき、驚き、意外性など、市民から鋭い質問がでてきたり、建設的な提案がでてきたり、指標はもっとこうしたら良いなど、いろいろなキャリアの方からの質問や発言によって、なんらかの気づきがあると良いなと思い、委員の皆様はヒアリングに向け、膨大な資料を読み込んでいたのでは</p>

なかろうか。できれば、来年度から外部評価の対象施策の担当部局の方々に対して、ヒアリング直後でも良いし、あるいは行動計画を作る時に外部評価を振り返ることになるかと思うので、振り返ってみて、何らかの気づきや学びがあったか、あるいは意外だと思った点など、アンケートのような形になるのか分からないが、聞いていただき、残しておくというのも良いことである。これは、外部評価委員会側の力量にもよるので、的確な質問ができるかどうかにもよると思うが、そういったことも次年度以降できたらと思う。

なぜ、このようなことを言うかということ、評価には2つの側面があると考えている。1つ目は、対外的には、市民や納税者への説明責任であるから、膨大なコストと費用をかけて市民に公表することによって透明性や説明責任を図っていくことが必要であるということ。2つ目は、内部的には、学習や見直しのツールという側面がある。実際に内部評価で完結するのではなく、外部評価という対話の機会を通じた学びや気づきを次の計画につなげていくという側面の両方がある。

アカウントビリティを果たしていくということが間違った方向に行くと、見せるための評価や作業になってしまい、学びや気づきがなければ、たちまち形骸化してしまう。申し上げたように組織的な改善、学習という視点と一般市民に対してしっかり公表していくという両方の視点を併せ持った内部評価と外部評価を車の両輪として、機能させていくということを今後もしっかり考えていく必要がある。

戸田市の外部評価委員会は、平成20年から試行的に外部評価を実施しており、平成28年度には条例化するなど、アップデートしていて結構なレベルに到達している。他の自治体では、評価結果をフィードバックしている例は、あまりないのではないかと考えているので、これからも頑張りたい。事務局の方が仮に交代したとしてもクオリティを下げずに向上、ひいては今後の総合振興計画につなげていただければと思う。

委員

次期の外部評価委員会の話になるが、評価対象については32施策のうち評価未実施の施策が20施策ある。この残った施策を対象として評価していくという方針で良いか。

事務局

昨年度の振り返りの中でも、ヒアリングを実施した施策の2回目の評価の

	<p>時期や方法が気になるという話があった。外部評価制度のスキームでは、何年に1度という決まりはないので、外部評価委員会での議論となるが、そういうものがあったても良いのではないかと考えている。</p>
委員	<p>一度評価した施策のPDCAは継続してもらおうとして、個人的に残った施策にも思い入れがあるので、対象施策にしてしっかり評価していただきたい。</p>
委員長	<p>意見や質問等はあるか。</p>
委員一同	<p>なし</p>
	<p>4 閉 会</p>